

2013年2月

考古 No. 6

けんぱくものしりシート

狩猟文土器



あな
孔があいています。



これは、壺の形をした土器です。

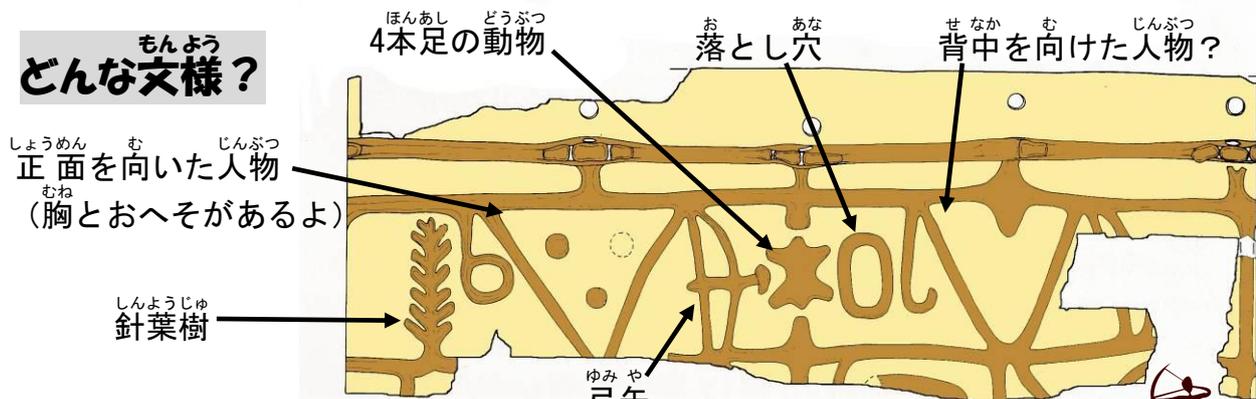
今から約4,000年前、縄文時代の中頃に作られました。狩りの様子が描かれているので狩猟文土器と呼ばれています。

それでは、狩りの様子をくわしく見てみましょう。

壺の上半分です。

ここから下は、欠けています。

どんな文様？



狩りの様子は、粘土ひもを使って描かれています。

人物が弓矢を獲物に向けてかまえています。



獲物の向こうには、落とし穴のようなものもあります。人物の左側には針葉樹も描かれています。狩りの場所は森の中だったのでしょう。

このように、狩りの様子が描かれているので、狩猟文土器は狩りの成功を願って使われたものではないかと考えられています。

どんな時に使ったの？

縄文人は土器を使って食事を作りました。それらはおこげなどがくっついていて、普段の食事に使われたと考えることができます。

それでは、この狩猟文土器は何に使われていたのでしょうか？狩猟文土器の表面には、おこげがありません。そのかわり、赤色の顔料（絵の具のようなもの）がうっすらと見えます。赤くぬられた土器は、特別な土器だったようです。このようにおこげがなく色がぬられた土器は、まつりの時に使われていたと考えられています。当ても現在のまつりのように、にぎやかだったのでしょうか。もしかしたら、狩りにまつわる自慢話やエピソードを楽しく語っていたのかもしれないね。

ここで発見！！

岩手県北部の二戸市の馬立Ⅱ遺跡から見つかりました。

馬立Ⅱ遺跡は、1986（昭和61）年に東北縦貫自動車道

八戸線を建設する工事の時の発掘調査で見つかりました。

遺跡からは、**縦穴住居**が19軒、**獲物を捕まえるための**

落とし穴が14個、**矢の先につける石鏃**（矢じり）

なども見つかっています。

二戸市 馬立Ⅱ遺跡



石鏃(矢じり)

写真：参考にした本より

※縦穴住居…くわしくは、【けんぱくものしりシート考古No.5】をみてね。

参考にした本 『岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財調査報告書第122集 馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
（財）岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1988年 他

来月（3月）の
けんぱくものしりシートは
歴史-6だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>